

3 研究実施体制

[概要]

本館の共同研究については、研究推進センターが年度ごとに募集方針を定め、本館研究部の教員や館外の研究者から公募によって申請された共同研究の計画に関して審議を行い、調整を行っている。そして、館外の委員を含む運営会議共同研究委員会において審議が行われ、広く学界の意見を反映させる体制をもって研究推進を図っている。

また、本館の研究においては、大学共同利用機関としての実質性を強化、充実させることを目的に、この共同研究員のほか、客員教員や外国人研究員(長期)の採用と研究プロジェクトへの配置や共同研究員の公募なども行っている。そして、機関研究員をはじめとする非常勤研究員、研究補助員を雇用して若手研究者の育成と研究推進の円滑化を図っている。

研究推進センター長 関沢まゆみ

[客員教員]

氏名	委嘱職名(本務校)	担当プロジェクト	期間
小林 淳一	客員教授(東京都江戸東京博物館・副館長)	先端的・開発的研究分野 「在外の日本関係資料の調査および館蔵近世・近代資料の調査研究」	2015.4.1 ～2020.3.31
義江 明子	客員教授(帝京大学・名誉教授)	先端的・開発的研究分野 「ジェンダー視点に基づく博物館展示の研究」	2016.4.1 ～2020.3.31
甲能 直樹	客員教授(国立科学博物館地学研究部・グループ長)	基盤研究(館蔵資料型) 「直良コレクションを構成する更新統産動植物化石の分類学的再検討と現代的評価」	2017.4.1 ～2020.3.31
宮内 貴久	客員教授(お茶の水女子大学基幹研究院人文科学系・教授)	基盤研究(課題設定型) 「高度経済成長と食生活の変化」	2018.4.1 ～2020.3.31
藤原 重雄	客員准教授(東京大学史料編纂所・准教授)	基盤研究(館蔵資料型) 「聆涛閣集古帖の総合資料学的研究」	2017.4.1 ～2020.3.31
梅田 千尋	客員教授(京都女子大学文学部・教授)	基盤研究(館蔵資料型) 「奈良暦師吉川家文書を中心とする暦・陰陽道研究の史料基盤形成」	2018.4.1 ～2020.3.31
三木 美裕	客員教授(博物館展示コーディネーター)	人間文化研究機構基幹研究プロジェクト 「日本関連在外資料調査研究・活用」	2011.4.1 ～2020.3.31
呉 昌炫	客員准教授(韓国国立民俗博物館・学芸研究士)	国際企画展示 「海がつなぐ日本と韓国」	2019.4.1 ～2020.3.31
工藤雄一郎	客員准教授(学習院女子大学・准教授)	総合展示第1室 「先史・古代」第1テーマ「最終氷期の人々」及びデータベース 「遺跡発掘調査報告書放射性炭素年代測定データベース」	2019.4.1 ～2020.3.31
若林 邦彦	客員教授(同志社大学歴史資料館・教授)	基盤研究1(課題設定型)「近畿地方における弥生時代～古墳時代初頭の金属器生産と社会」	2019.4.1 ～2020.3.31
三野 行徳	客員准教授(国文学研究資料館・プロジェクト研究員)	基盤研究2(館蔵資料型)「近世後期番方旗本家に関する総合的研究—大番士・儒者杉原家文書を中心に—」	2019.4.1 ～2020.3.31
春日 聡	客員准教授(多摩美術大学・非常勤講師)	基盤研究3(歴博研究映像) 「歴博研究映像の制作・保存・活用—苧麻文化の映像記録化を中心に—」	2019.4.1 ～2020.3.31

[外来研究員]

氏名	研究課題	期間
安室 知	民具および民俗誌を用いた民俗分布に関する研究	2019.4.1 ～2020.8.31
有富 純也	古代東部ユーラシアにおける仏教経典の国際的研究	2019.4.1 ～2020.3.31
問芝 志保	近代日本の先祖祭祀と文化的アイデンティティ —東アジアとの差異化の観点から—	2019.4.1 ～2022.8.31
松山由布子	説話伝承と地域文化に関する研究 —東海地域における疫神信仰の形成と展開—	2019.4.1 ～2021.3.31

[プロジェクト研究員]

氏名	研究課題	期間
野村 彩	国際交流プロジェクトにおける国際的な共同研究・展示に関する諸事業の支援	2015.7.1 ～2020.3.31
瀧上 舞	日本列島における人間・文化の起源とその発展に関する総合的研究	2018.11.1 ～2022.3.31
青柳 正俊	ヨーロッパにおける19世紀日本関連在外資料調査研究	2019.4.1 ～2022.3.31
川邊 咲子	総合資料学の創成と日本歴史文化に関する研究資源の共同利用基盤構築プロジェクト	2019.5.20 ～2022.3.31
箱崎 真隆	総合資料学の創成と日本歴史文化に関する研究資源の共同利用基盤構築プロジェクト	2019.7.1 ～2022.3.31

[科研費支援研究員]

氏名	研究課題	期間
箱崎 真隆	考古学データによるヤポネシア人の歴史の解明	2019.4.1 ～2019.6.30
石井 匠	心・身体・社会をつなぐアート／技術	2019.8.1 ～2024.3.31

[リサーチアシスタント]

氏名	所属	研究プロジェクト	期間
三津山智香	小池 淳一	地域における歴史文化研究拠点の構築	2019.4.1 ～2020.3.31
山崎 和	原山 浩介	北米における日本関連在外資料調査研究・活用	2019.4.1 ～2020.3.31
古田 一史	小倉 慈司	古代の百科全書『延喜式』の多分野協働研究	2019.4.1 ～2020.3.31
五味 玲子	横山百合子	近代日本における産業・労働と展開とジェンダー	2019.4.1 ～2019.5.31
横田 慶一	宮内 貴久 (関沢まゆみ)	高度経済成長と食生活の変化	2019.4.1 ～2020.3.31

氏名	所属	研究プロジェクト	期間
近藤 絢音	梅田 千尋 (小池 淳一)	奈良暦師吉川家文書を中心とする暦・陰陽道研究の史料基盤形成	2019.4.1 ～2020.3.31
高木まどか	三野 行徳 (福岡万里子)	番方旗本家に関する総合的研究 —大番士・儒者杉原家文書を中心に—	2019.5.1 ～2020.3.31
小風 尚樹	後藤 真	総合資料学の創生	2019.11.11 ～2020.3.31

[研究機器]

歴博では、歴史学・考古学・民俗学の三学協業とともに分析科学をはじめ関連諸科学との学際的な積極的連携をはかり、新しい歴史学の構築創造をめざしている。このため、大学共同利用機関として、館外の研究者との共同研究を通じて新しい研究方法の導入に努めるほか、館内においても先端的な研究に必要な機器を導入することに努めてきた。

主な研究機器は下記の通りである。これらは一部を除いて共同利用に供されている。

研究推進センター長 関沢まゆみ

[主要研究機器]

分析機器・設備名		規格		導入年度	主な用途
微小試料採取設備		マイクロサポート	AxisProSS	2015年度	・顔料, 剥離漆の採取
マルチコレクタICP 質量分析計 (MC-ICP-MS)		Thermo Fisher Scientific	NEPTUNE PLUS	2013年度	・鉛同位体比の測定 (青銅製 品などの産地推定等) ・ストロンチウム同位体比の 測定 (人骨による生育地推定 等)
X線分析顕微鏡		HORIBA (堀場)	XGT-5200SL	2013年度	・元素分析 (錦絵色材等) ・元素マッピング解析
特性X線検出器付低真空電子 顕微鏡 (SEM-EDX)		JEOL (日本電子)	JSM-6010LA	2013年度	・極微小部の観察 (種実同定, 種実圧痕, 金属製品等) ・微小部の元素分析
色相・有機質分析システム		Megavision	EV multispectral imaging system	2013年度	・文化財のマルチバンド測定 (13 bands)
分光放射輝度計		コニカミノルタ	CS-2000A	2012年度	・文化財の可視分光測色
ICP発光分光分析装置		Thermo	iCAP 6200 DUO	2011年度	・同位体比測定のために抽出 した鉛, ストロンチウムなど の回収量分析 ・微量元素分析
内 訳	InGaAsカメラ	浜松ホトニクス	C10633	2011年度	・木簡の文字判別 ・漆紙文書の文字判別
	カメラ コントローラー	浜松ホトニクス	C2741-62	2011年度	
ハンドヘルド蛍光X線分析計		オリンパス・ イノベックス	DP2000 DELTA Premium	2010年度	・大型資料, 館外所在資料の 極部元素分析
高温用赤外線 サーモグラフィ		JENOPTIK	VarioTHERM basic	2006年度	・炎の逐次温度測定 (鍛冶技 術の数値的分析) ・高温時の加工品の温度測定
AMS- ¹⁴ C法支援機器					
内 訳	自動AAA処理装置	光信理化学製作所	K-RS-C	2006年度	・炭素14年代測定試料の調製 ・炭素・窒素安定同位体分析 試料の調製 ・酸素安定同位体分析試料の 調製 ・炭素・窒素濃度の測定
		光信理化学製作所	K-RI-C	2002年度	
	グラファイト 精製装置	光信理化学製作所	K-R0-L	2006年度	
		光信理化学製作所	K-RS-EL	2005年度	
		光信理化学製作所	KS-MK-5	2000年度	
	元素分析計	Thermo	Flash EA 1112	2005年度	
高精細デジタル顕微鏡		キーエンス	VHX-500	2005年度	・微小部の観察 (金属製品等)
蛍光X線分析装置 (XRF)		JEOL (日本電子)	JSX-3201M	2004年度	・元素分析 (漆顔料, 金属製品, 製鉄工 程の判定等)
電子線微小部分分析装置 (EPMA)		JEOL (日本電子)	JXA-8200	2003年度	・微小部の観察と元素分析 (金属製品等)

〔図 書〕

現在、本館の研究棟には「研究用図書室」が、展示場には「入館者用図書室」があり、それぞれの用途・利用者にあわせて、関連諸分野の図書や雑誌等を中心に収集・保管を進めている。

図書部会では、例年「本館における図書収集方針」を確認したうえで、それにそって必要な図書等を収集・登録し、各施設の整備等をすすめて、図書利用におけるサービスの向上に努めている。

(1) 2019年度の図書収集方針の概要

当該年度の図書収集方針は、次のとおりであった。

- ・日本の歴史と文化について、歴史学・考古学・民俗学及び関連諸学の基本的な図書を収集する。

〔図書〕

- ・共同研究、展示にかかわる基本図書を収集する。
- ・自治体史（都道府県史・市町村史）、発掘調査報告書・民俗調査報告書、展示会図録類（本館の研究等に関連する博物館・美術館のものは、蔵書の特色であり、重点的・網羅的収集に努める。

〔雑誌〕

- ・大学研究紀要、学術雑誌類は、継続誌を中心として主要な雑誌を受け入れる。
- ・雑誌購入は必要最小限とし、電子媒体及び図書館相互協力の有効活用を図る。

(2) 2019年度の活動概要

1) 入館者用図書室の図書分類表の見直し

第1展示室のリニューアルオープンを受け、入館者用図書室の図書分類について見直しを行い、展示室のテーマにあわせた図書の配架を行った。

2) 総合研究棟第2書庫の整備

館長リーダーシップ支援経費を獲得し、総合研究棟第2書庫2層の床設置工事を実施した。これにより、中地下1階371.47㎡（階段を除いた面積355.51㎡）を増床した。あわせて、1層の空調、電気、ハロン消火の各設備工事を実施した。

3) 特殊本（旧名称「和装本」）の実査と取扱指針の制定

研究用図書室で所蔵する、和装本・卷子装本などの特殊形態図書（貴重書を含む）約1,300タイトル（約7,000点）のうち55%の実査を行い、書誌・資料状態を調査した。この調査結果をもとに取扱指針を定め、適切な保管と円滑な利用を行える体制を整備した。

(3) 今後の課題

館内配分予算の縮小や雑誌価格上昇等により、図書購入費のうち新規図書購入に充てられる予算は年々減少している。図書購入費に占める割合が高い継続雑誌、継続図書、電子資料について更なる見直しを図るとともに、図書購入費を確保する方法について検討する必要がある。また、総合研究棟第2書庫2層に書架を設置するための予算確保、劣化が進むマイクロフィルムのデジタル化資料等への代替や巻き直し等、保存のための環境整備と劣化対策について引き続き検討が必要である。加えて、歴博の研究成果の情報発信のため、関連出版物の収集および入館者用図書室における情報発信環境の整備も求められている。

図書担当 澤田和人

〔図書受入冊数〕

	研究用図書室 受入冊数	入館者用図書室 受入冊数	製本雑誌	除籍冊数	累計蔵書冊数
冊数	3,558	113	177	569	357,684